

定住自立圏構想

中心市宣言書



平成 22 年 3 月 26 日

千葉県旭市

旭市定住自立圏 中心市宣言

現在の旭市は、平成17年7月1日に旧旭市、旧海上町、旧飯岡町、旧干潟町の1市3町が合併して誕生しました。

旧旭市は、合併以前より行政機関、医療機関、教育機関、商業施設など都市機能の一定の集積があり、周辺地域の中心都市の役割を担ってきました。特に1市3町の一部事務組合で運営されてきた旭中央病院は、全国トップクラスの評価を得ている公立病院であり、市内はもとより隣接地域、県内外を含めて医療圏人口100万人を擁しています。

旧1市3町は合併以前より、地理的・歴史的にも、また経済・文化・生活の面でも深い結びつきを有してきました。地理的には、美しい九十九里浜の海浜や緑豊かな田園景観と北総台地など、恵まれた美しい自然環境を基盤としてきました。生活面においては、旧1市3町を横断する国道126号・飯岡バイパスを中心に、県道、東総広域農道などが道路網の骨格をなし、日常生活圏として一体化しています。また広域行政の取り組みとして、一部事務組合による病院・消防・ゴミ処理など、住民生活の安全・安心に関する事業の連携強化と一体的な進行を図ってきました。

このような関係をもって合併し「新旭市」が誕生したことにより、周辺地域から自立した一つの圏域が形成されたこととなります。

現代の日本社会は、時代の大きな変化に直面しており、少子・高齢化と人口減少、都市部への人口流出、医師不足、耕作放棄地の増加、地域経済の衰退など多くの喫緊の課題を抱えています。旭市においても例外ではなく、人口減少による地域経済力の低下、コミュニティの衰退など様々な問題が懸念されています。市民が安心して暮らし続けるためには、こうした課題の解決とともに、自立した地域社会を形成していく必要があります。

旭市においては、旧1市3町の各地域が連携して主体性と活力を高め「自立」すること、各地域の個性を尊重しながら人・地域・自然・歴史・文化が「共生」し資源価値の再評価と魅力の創造を進めること、人材育成を推し進めて知恵と力の結集を図り「協働」による地域活性化を図ることが重要になります。

そのため、ここに、合併前の旧旭市を中心地域とし、旧海上町、旧飯岡町、旧干潟町を周辺地域とした「旭市定住自立圏」の構築を掲げ、圏域全体の生活機能の集約化・ネットワーク化を促進するとともに、圏域全体の総合的なマネジメントを行い、医療・福祉・教育等のさらなるサービスを提供していくことにより、市民の誰もが健康で安心・安全に暮らせる日本一住みよいまち『人が輝き 海と緑がつくる健康都市“旭”』を目指すことを内外に向けて宣言します。

平成22年3月26日

旭市長 明智 忠道

定住自立圏構想へ向けての背景と取り組み

旭市（中心地域である旧旭市及び周辺地域である旧海上町、旧飯岡町、旧干潟町）における都市機能の集積状況、利用状況、及び今後展開しようとする取り組みは以下の通りです。

1. 都市機能の集積状況

旧旭市における公共施設等による各種サービス機能、中核的な医療機能、その他行政及び民間分野にわたる都市機能の集積状況は概ね以下の通りです。

行政	○県 ○市 ○広域	旭警察署 千葉県北総県民センター海匝事務所 旭市役所本庁舎 旭市消防本部 旭市水道庁舎 旭クリーンセンター みたま苑旭火葬場 東総衛生組合
医療・福祉	○病院 ○福祉	総合病院国保旭中央病院 旭健康福祉センター 旭市保健センター
教育	○専門学校 ○高校	県立旭高等技術専門学校 旭中央病院付属看護専門学校 県立旭農業高等学校 県立東総工業高等学校
文化		千葉県東総文化会館 県立東部図書館 旭市民会館
スポーツ・レクリエーション		スポーツの森公園 あさひパークゴルフ場 袋公園
駅		JR 旭駅（総武本線） JR 干潟駅（総武本線）
商業		ショッピングセンターサンモール 旭市商工会館

		旭駅周辺商店街 専門店会
工業		あさひ新産業パーク（鎌数工業団地）

2. 都市機能の利用状況

① 病院利用・購買

次表の数値に代表されるように、旧3町の住民が旧旭市に集積された都市機能を利用しています。旧旭市の都市機能は周辺地域にも及んでおり、旧旭市がこの地域の住民生活等において中心的な役割を担っています。

【旭中央病院の患者数】

(外来患者)

	外来患者数(人)	割合
旧旭市	141,151	18.9%
旧海上町	34,627	4.6%
旧飯岡町	34,172	4.6%
旧干潟町	29,111	3.9%
小計	239,061	32.0%
その他	508,676	68.0%
合計	747,737	

平成20年度延べ患者数

(入院患者)

	入院患者数(人)	割合
旧旭市	49,296	15.2%
旧海上町	14,646	4.5%
旧飯岡町	12,567	3.9%
旧干潟町	10,710	3.3%
小計	87,219	26.9%
その他	236,802	73.1%
合計	324,021	

平成20年度延べ患者数

【旧旭市における吸引率】

	衣料品	文化品	耐久品	家庭日用品	食料品	贈答品	飲食
旧海上町	82.8%	73.8%	66.0%	81.7%	49.8%	81.8%	88.2%
旧飯岡町	82.0%	70.1%	62.4%	46.3%	32.1%	80.4%	91.1%
旧干潟町	80.9%	77.8%	80.4%	92.6%	63.2%	87.2%	93.6%

平成18年消費者購買動向調査より

※吸引率 = 吸引人口 ÷ 商圏人口 × 100

② 通勤・通学

旧3町から旧旭市への従業・通学者数、及び通勤通学割合は次の通りです。旧旭市への一定割合以上の住民の移動があり、旧旭市はこの地域における住民生活等において中心的な役割を担っています。

【旧3町から旧旭市への通勤・通学者】（単位：人）

	常住就業者・ 通学者数（人）	旧旭市での従業 ・通学者数（人）	通勤通学 割合
旧海上町	3,873	364	9%
旧飯岡町	4,115	299	7%
旧干潟町	4,028	316	8%
計	12,016	979	8%

平成12年国勢調査より

※通勤通学割合 = 従業又は通学する就業者数及び通学者数 ÷ 常住する就業者及び通学者数 × 100

周辺市から合併後の旧旭市への従業・通学者数、及び通勤通学割合は次の通りです。いずれも10%以下であり、旭市は周辺自治体から自立した一つの圏域を形成しています。

【周辺市から旧旭市への通勤・通学者】（単位：人）

	常住就業者・ 通学者数（人）	旧旭市での従業 ・通学者数（人）	通勤通学 割合
銚子市	40,259	1,879	5%
匝瑳市 (旧八日市場市、 旧野栄町)	22,669	2,065	9%
計	62,928	3,944	6%

平成17年国勢調査より

※通勤通学割合 = 従業又は通学する就業者数及び通学者数 ÷ 常住する就業者及び通学者数 × 100

3. 展開しようとする取り組み

旭市が、各地域の特性を生かして互いに連携・協力することにより、地域全体を活性化させ、定住を基本とした安心して暮らせる自立した圏域の構築のために展開しようとする取り組みは以下の通りです。

① 生活機能の強化のための取り組み

a) 医療・福祉

- ・旭中央病院を核とした地域医療・福祉の充実と健康・安心のまちづくり

b) 教育

- ・地域資源を市民が知る機会づくりなどの地域学習支援

c) 産業振興

- ・地域資源の再評価とPRによる観光振興
- ・農水商工連携による地域の特産品開発
- ・空き店舗利用、チャレンジショップ支援などによる中心市街地活性化
- ・工業団地への優良企業誘致

② 結びつきやネットワークの強化のための取り組み

a) 地域公共交通・交通インフラ

- ・地域内連絡道路の整備や歩行者安全性の確保など交通道路網の整備
- ・コミュニティバス等の公共交通ネットワークの拡充

b) 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

- ・地場製品の地域内PR・販売

c) 地域内外の住民との交流・移住推進

- ・里山、幽学の里など市内周縁部における交流事業の推進
- ・観光資源の編集
- ・都市圏における販売・PRイベント、PR機能設置
- ・地域内交流の促進、コミュニティ力の育成（多世代交流・食育活動支援）
- ・地域の魅力を自ら発信できる市民ガイドの育成

d) 都市機能強化

- ・駅前広場整備と景観形成、中心市街地活性化などによる中心都市機能強化

③ 圏域マネジメント能力の強化のための取り組み

a) 人材の育成・交流

- ・地域の達人を中心とする異業種交流の推進
- ・市民活動支援の拡充
- ・視察、研修、交流等による能力育成

b) 外部人材の招聘

- ・外部からのアドバイザー、マネージャー、プロデューサー等の招聘